先人の知恵：先人たちから学ぶ事の必要性について

先人の知恵に学ぶとはよく言ったものですが、彼らが経験した事、失敗した事や作り上げた事から人は積極的に学ぶべきだと言うのです。それが哲学なのか、歴史なのか、化学なのか、数学なのか、はたまた思考法やアイデアなのかと言う所は様々とありますが、現代人が人生で経験するあらゆる事、悩むであろうあらゆる事は既に、先人たちが通った道である事がほとんどでしょう。

たまに、「誰々だったらどうするだろう？」と言うレンズで物事を考える人が居ますが、非常に有効な思考方法だと思います。他にある似た思考方法としてローマの哲学者であるセネカが考案したのが、あなたが尊敬する誰かが、あなたの肩越しにあなたを見ていると想像してみると言う方法です。そうすると、あなたが怠けそうになったり、魔がさしそうになった時、一つの抑止力となるかもしれません。

そして、言わずもがな、あなたが尊敬すべき人物と言うのは、存命の人物だけではなく、亡くなった先人でも良いわけです。あらゆる自伝やネット記事、ウィキペディアでも良いです。それを見て、あなたが尊敬できるような人物を見つけてみるのも良いかもしれません。

「自分は自分だ！死んだ人間の影には生きないぞ！」と言う人が居るかもしれませんが、あなたが人生で経験できる事は歴史や先人たちの集合体と比べたら、塵の如く小さい。あなた自身が生きて行く中で経験する事、そして先人たちが経験してきた事を合わせる事こそが利口な選択なのではないでしょうか？

過去、歴史、偉人、先人。彼らの経験や成功と失敗は図書館のように、インターネットや書物を通して誰もがアクセスする事が出来る物であり、その知恵を消費する事があなたの人生をより良い物にするのかもしれません。